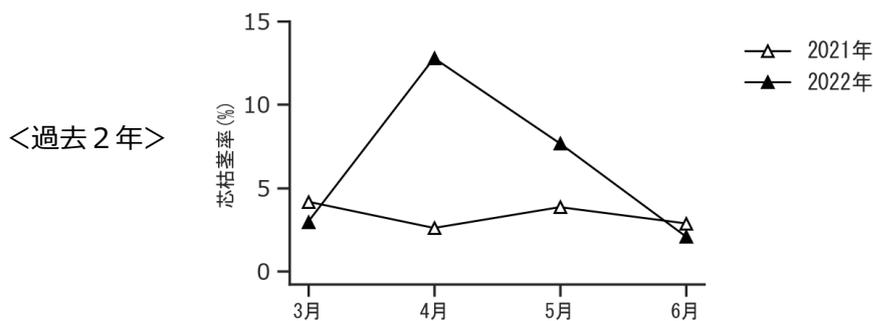
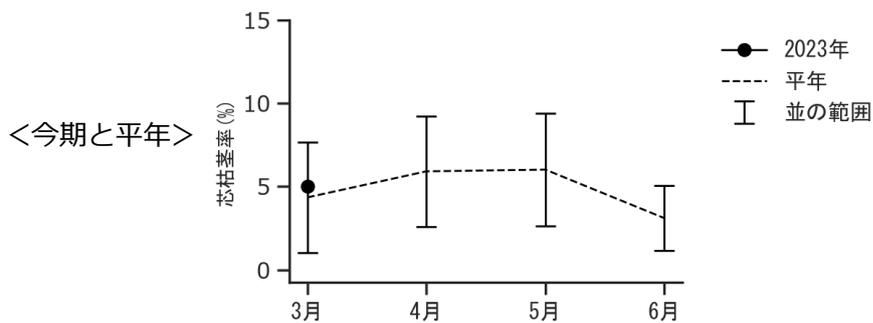


作物	さとうきび		地域	宮古群島
病害虫名	① メイチュウ類(カンシャシンクイハマキ・イネヨトウ)			
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	並		
予報	3 月からの増減傾向	↗		
		4 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

芯枯茎率の推移



- ・ 茎内で発見したメイチュウ類のうち、優先種はカンシャシンクイハマキであった。
- ・ 発生ほ場率95.0% (平年 : 91.2%)

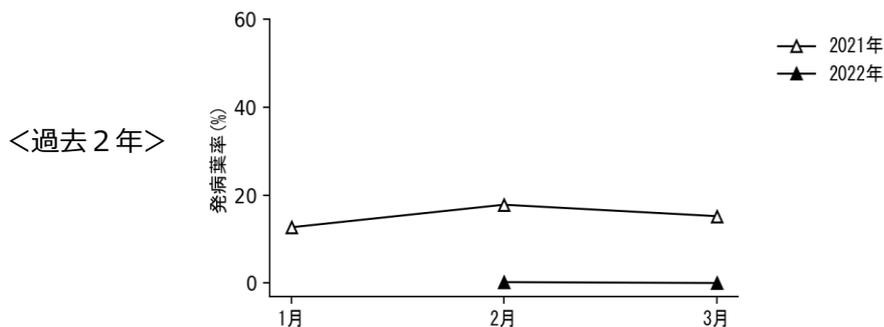
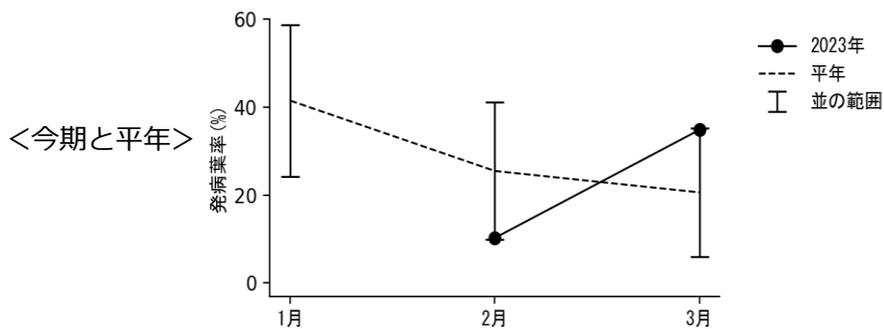
防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、植付けおよび株出し管理時から生育初期にかけての防除を徹底する。

作物	かぼちゃ	地域	宮古群島
病害虫名	うどんこ病		
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	3 月からの増減傾向	—	
	4 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

発病葉率の推移



・発生ほ場率80.0% (平年 : 72.9%)

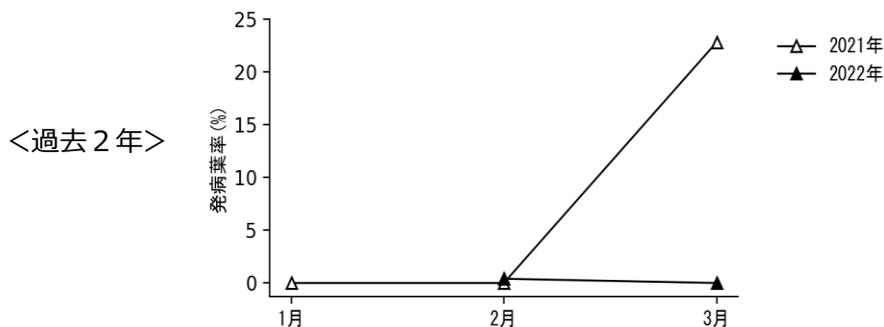
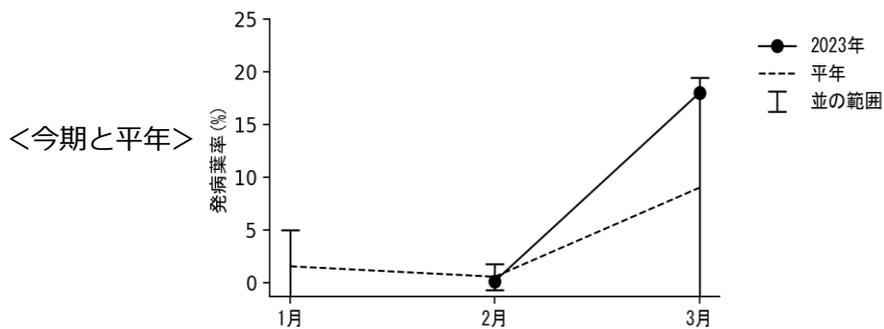
防除のポイント

- ・着果期以降は草勢の低下に伴い被害が急激に広がる場合があるので防除を徹底する。
- ・発生源となる老葉や不要な下葉を除去し、透光通風を良くする。
- ・窒素質肥料の多用を避け、予防散布を行う。
- ・薬剤耐性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	かぼちゃ	地域	宮古群島
病害虫名	斑点・褐斑細菌病		
調査結果	3 月の発生量（平年比）	並	
予報	3 月からの増減傾向	—	
	4 月の発生量（平年比）	—	
予報の根拠			

調査結果

発病葉率の推移



・発生ほ場率80.0%（平年：30.6%）

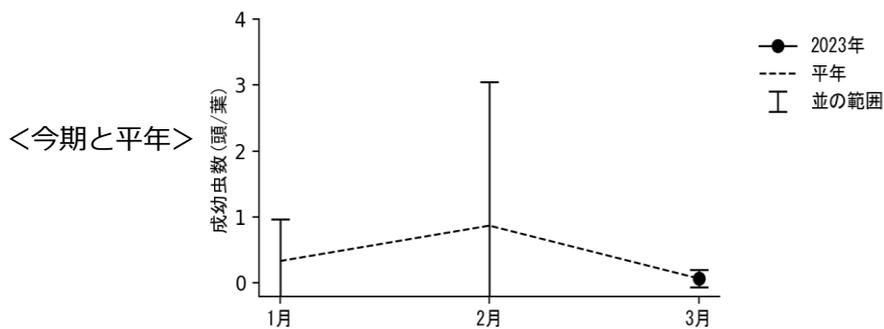
防除のポイント

- ・強風による葉すれ等の傷口から感染するため、防風垣（ソルゴーや防風ネット等）を設置する。
- ・降雨や強風などの気象条件が続くと急激に広がる場合があるので、強風降雨の後は薬剤散布を行う。

作物	かぼちゃ	地域	宮古群島
病害虫名	アブラムシ類		 <p>有翅虫</p>
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報	3 月からの増減傾向	—	
	4 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

成幼虫数の推移



・発生ほ場率40.0% (平年 : 28.6%)

防除のポイント

- ・ほ場周辺に防風対策を兼ねた防虫ネットやソルゴー等を設置し、有翅虫の飛来侵入を防ぐ。
- ・葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・ほ場周辺の雑草はアブラムシ類の発生源になるので除去する。
- ・アブラムシ類はウイルス病を媒介する。

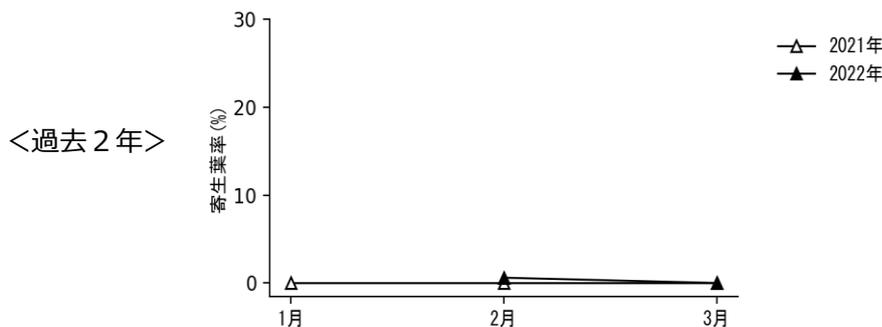
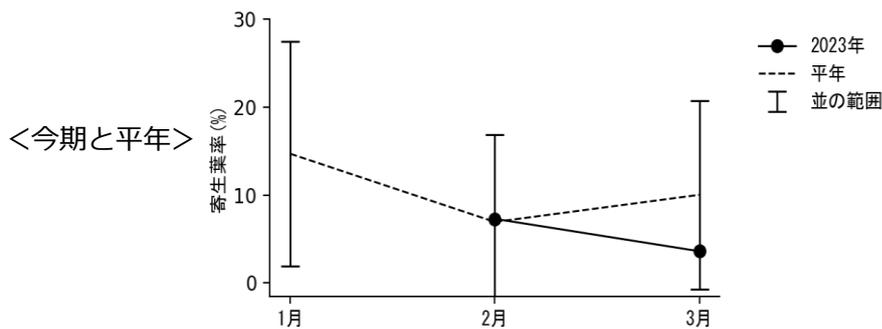


無翅虫

作物	かぼちゃ	地域	宮古群島
病害虫名	ハモグリバエ類		
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報	3 月からの増減傾向	—	
	4 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

寄生葉率の推移



・発生ほ場率80.0% (平年 : 27.1%)

防除のポイント

- ・多発すると防除が困難になること、また寄生痕からうどんこ病や細菌性病害が侵入する可能性があることから、発生初期の防除を徹底する。
- ・幼虫期間が短いため、葉面に産卵痕や食害痕が見え始めたら防除を開始する。
- ・防除効果は幼虫の体色で判断する。生存時は黄色で死亡すると黒変する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ほ場周辺の雑草はハモグリバエ類の発生源になるため除去する。

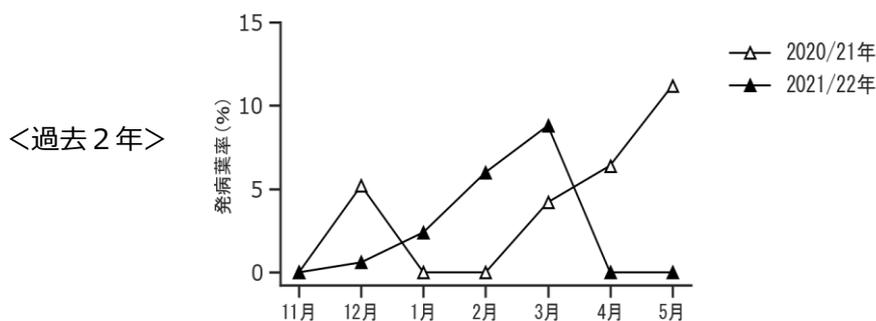
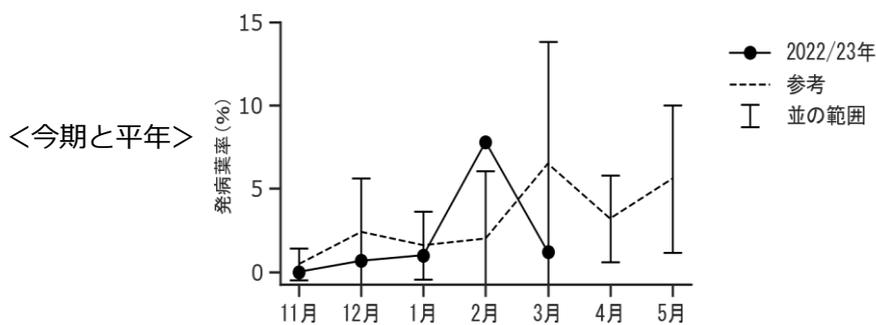
幼虫の死骸
(農薬などで死亡すると黒色に変色)



作物	とうがん(施設・立体栽培)	地域	宮古群島
病害虫名	うどんこ病		
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	3 月からの増減傾向	↓	
	4 月の発生量 (平年比)	やや少	
予報の根拠		発生量の推移 (↓)	

調査結果

発病葉率の推移



・発生施設率20.0% (参考 : 50.0%)

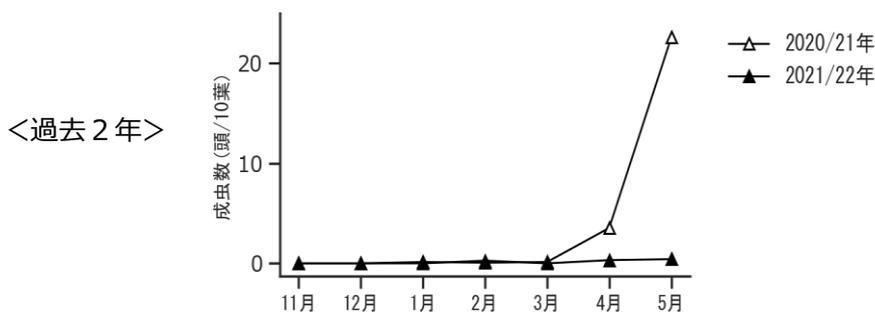
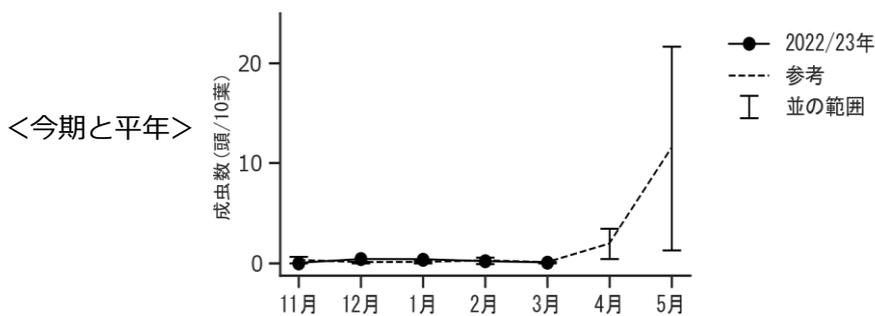
防除のポイント

- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・老葉や病葉は発生源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。

作物	とうがん(施設・立体栽培)	地域	宮古群島
病害虫名	ミナミキイロアザミウマ		
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報	3 月からの増減傾向	↗	
	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		発生量の推移 (↗)	

調査結果

成虫数の推移



・発生施設率40.0% (参考：20.0%)

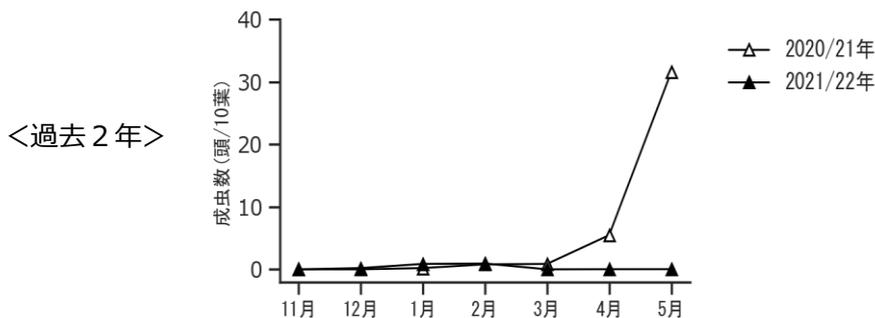
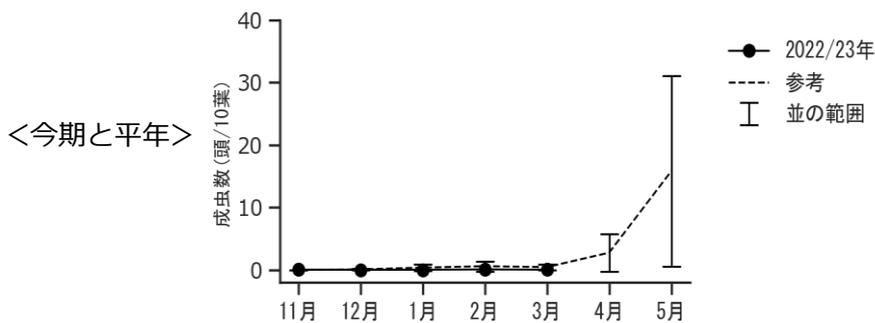
防除のポイント

- ・本種はスイカ灰白色斑紋ウイルスを媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合い0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	とうがん(施設・立体栽培)	地域	宮古群島
病害虫名	タバココナジラミ		
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	並	 <p>成虫</p>
予報	3 月からの増減傾向	↗	
	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		発生量の推移 (↗)	

調査結果

成虫数の推移



・発生施設率20.0% (参考 : 30.0%)

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口は目合い0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。

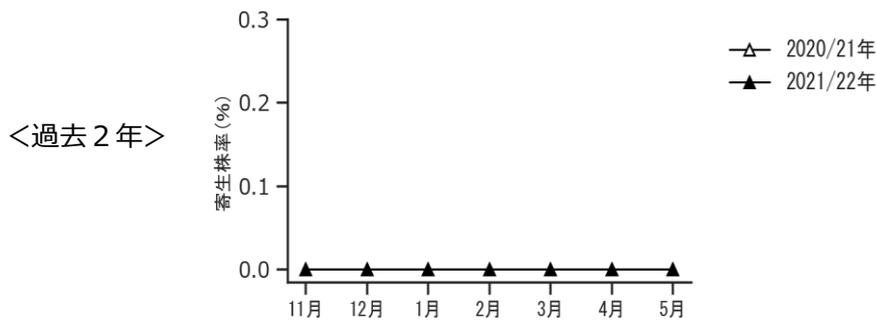
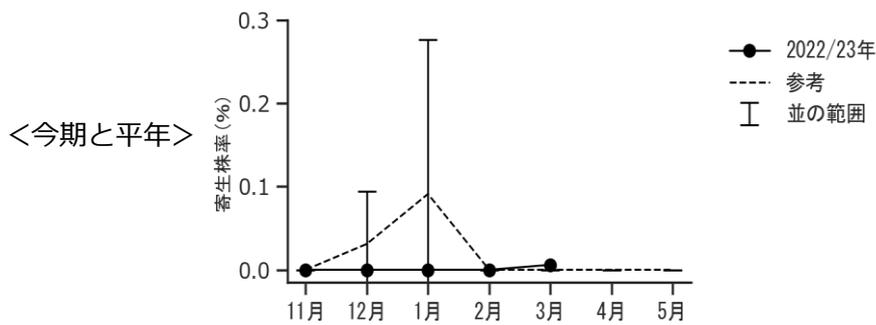


幼虫

作物	とうがん(施設・立体栽培)		地域	宮古群島
病害虫名	ハダニ類			
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	多		
予報	3 月からの増減傾向	→		
	4 月の発生量 (平年比)	多		
予報の根拠		発生量の推移 (→)		

調査結果

寄生株率の推移



・発生施設率20.0% (参考：0%)

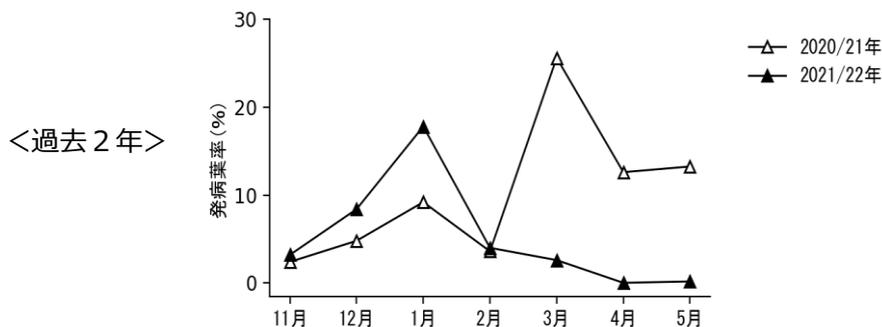
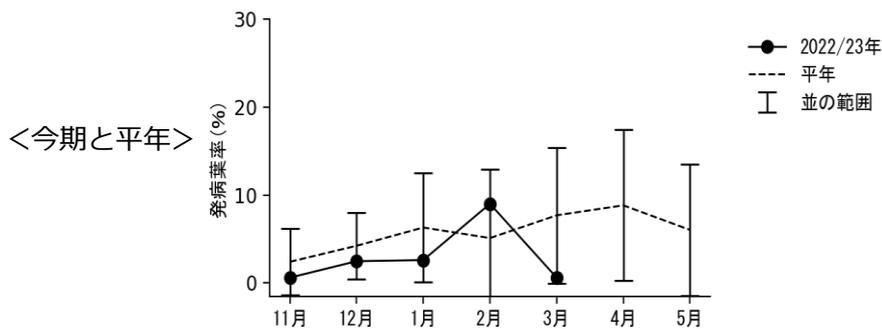
防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・気門封鎖型薬剤の散布を主体とした防除を行う。

作物	ニガウリ(施設)		地域	宮古群島
病害虫名	① うどんこ病			
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	並		
予 報	3 月からの増減傾向	↗		
	4 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

発病葉率の推移



・発生施設率20.0% (平年：46.0%)

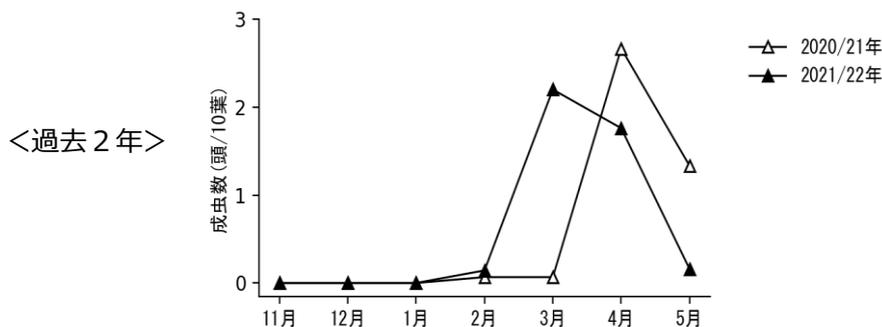
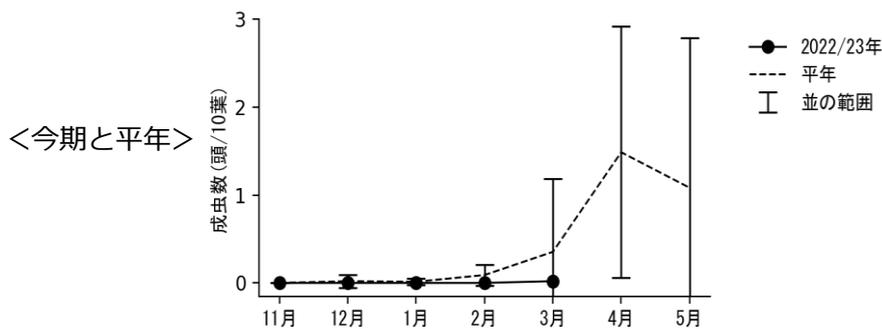
防除のポイント

- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・老葉や病葉は発生源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

作物	ニガウリ(施設)		地域	宮古群島
病害虫名	② ミナミキイロアザミウマ			
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	並		
予報	3 月からの増減傾向	↗		
	4 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

成虫数の推移



・発生施設率20.0% (平年 : 18.0%)

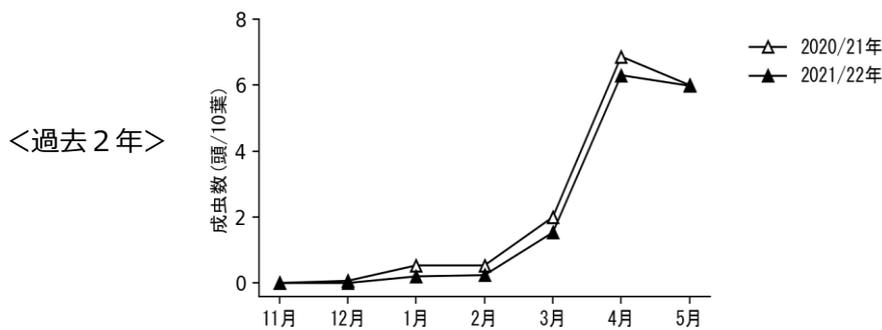
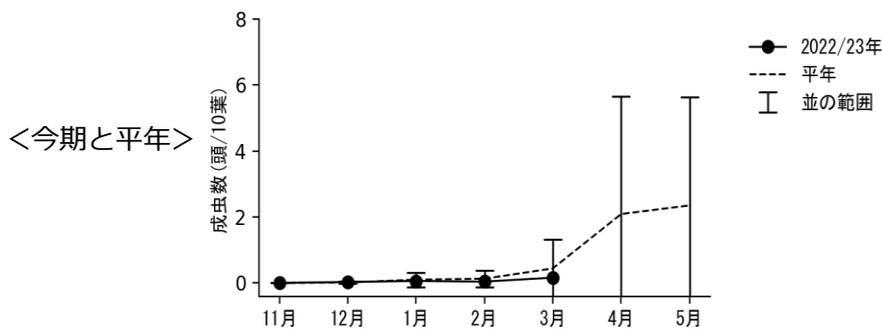
防除のポイント

- ・本種は吸汁により果実表面にケロイド状の被害を生じるほか、スイカ灰白色斑紋ウイルスを媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合い0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	ニガウリ(施設)		地域	宮古群島
病害虫名	③ タバココナジラミ			 <p>成虫</p>
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	並		
予報	3 月からの増減傾向	↗		
	4 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

成虫数の推移



・発生施設率20.0% (平年：22.0%)

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合い0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。

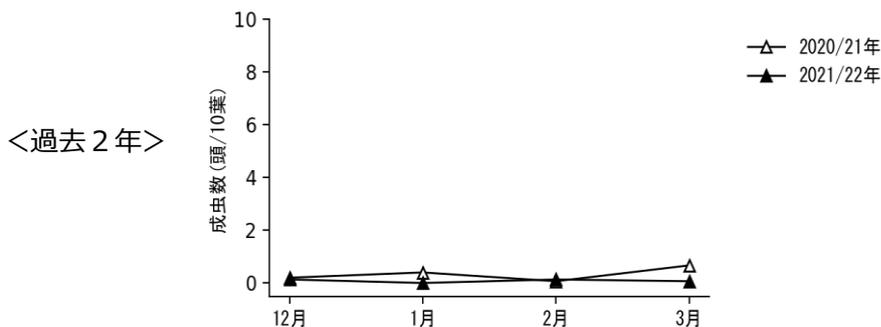
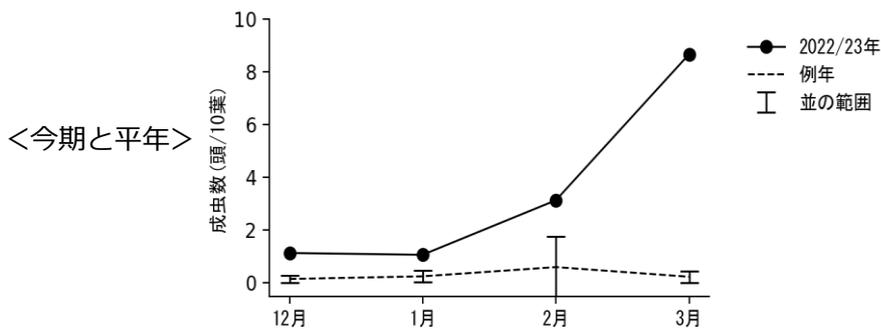


幼虫

作物	さやいんげん(施設)	地域	宮古群島
病害虫名	タバココナジラミ		 <p>成虫</p>
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	多	
予報	3 月からの増減傾向	—	
	4 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

成虫数の推移



・発生施設率75.0% (例年：35.0%)

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窗は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。

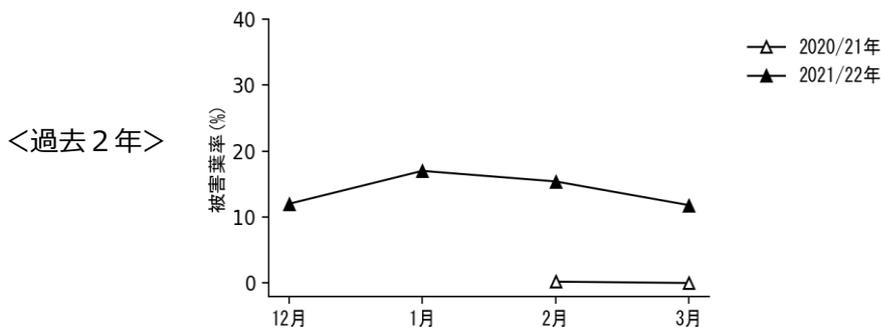
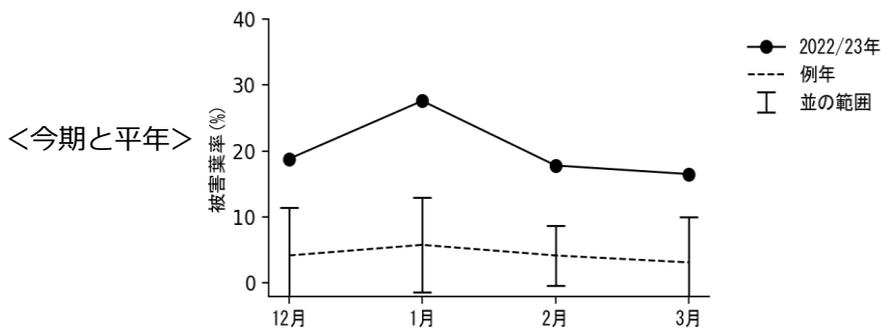


幼虫

作物	さやいんげん(施設)	地域	宮古群島
病害虫名	ハモグリバエ類		
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	3 月からの増減傾向	—	
	4 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

被害葉率の推移



・発生施設率50.0% (例年：35.0%)

防除のポイント

- ・摘葉等による残さは成虫の発生源となるので、ビニール袋に入れるなどして、施設外に持ち出し処分する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・野外に多数の在来天敵が存在するため、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を使用する。

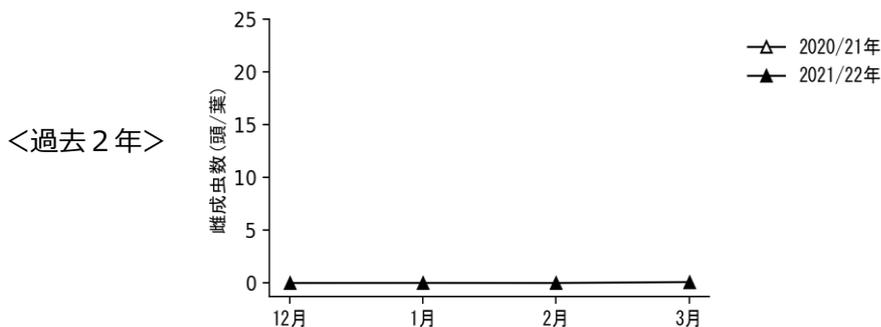
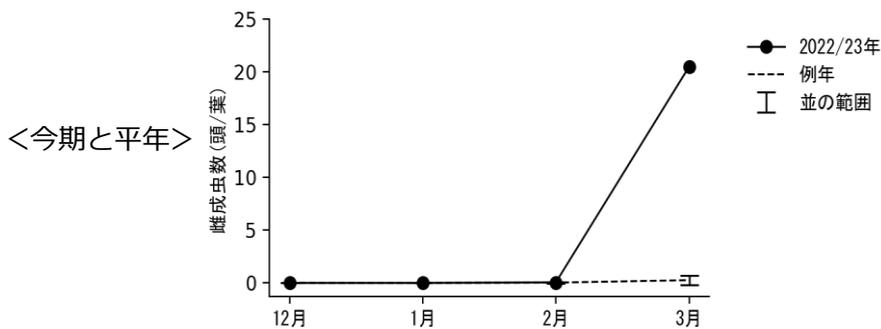


被害葉

作物	さやいんげん(施設)		地域	宮古群島
病害虫名	ハダニ類			
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	多		
予報	3 月からの増減傾向	—		
	4 月の発生量 (平年比)	—		
予報の根拠				

調査結果

雌成虫数の推移



・発生施設率50.0% (例年：26.7%)

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。